

EUR / USD ユーロ米ドル 月次レポート

前月振り返りと2026年9月の相場展望

発行日

September 1, 2026

対象期間

8月実績 / 9月展望

通貨ペア

EUR / USD

発行頻度

Monthly

8月末レート（終値）

1.16164

+0.62%（8月月間騰落率）

8月高値

1.17113

8月安値

1.15002

ECB金利

2.25%

FED金利

3.50–3.75%

今月のハイライト

8月は1.15443でスタートし1.17113まで上昇し、1.16164で引け、月間+0.62%となった。ユーロが対ドルで小幅高となった

ECBは8月に会合がなかった。7月議事要旨（8/27公表）で9月の追加利上げ可能性が示唆され、ユーロを下支えた

FOMCは8月に会合がなかった。8/28のジャクソンホール講演でWarsh議長が追加引き締めの可能性を排除しない姿勢を示したがドル高は限定的

米欧ともに次回会合は9月に集中。ECBとFedの追加利上げ余地が市場で意識されており、両中銀の動向が方向性を見極める材料となる可能性がある

9月 基本シナリオ レンジ

1.150 – 1.175

ECBは9/10、Fedは9/15-16（SEP公表）に会合。両中銀の姿勢が焦点

米欧政策金利差

1.25–1.50pp

Fed上限3.75%・下限3.50%とECB預金金利2.25%の差

始値

1.15443

8月最初の取引日

高値

1.17113

月中最高値

安値

1.15002

月中最安値

月間騰落

+0.62%

+0.00721

8月の相場動向

8月のユーロドルは**1.15443**でスタートし、**月央にかけて1.17113まで上昇する場面があった**。ECBの7月議事要旨（8/27公表）では、7月の据え置きが引き締めサイクルの終了を意味するものではないことが示唆され、9月の追加利上げ観測がユーロを支えたとみられる。

8/28のジャクソンホール講演でWarsh議長はインフレはまだ十分に改善していないとし、追加引き締めの可能性を排除しない姿勢を示した。もっともドル高は限定的にとどまった。最終的に**1.16164**で引け、**月間+0.62%**のユーロ高・ドル安となった。

主要イベントの影響

EU ECB / 8月は会合なし・7月議事要旨

8月はECB理事会が開催されなかった（次回9/10）

7月議事要旨（8/27公表）で「7月の据え置きは引き締めサイクルの終了を意味しない」と明記

インフレ見通し次第で9月の追加利上げもありうることが示唆された

US FED / 8月ジャクソンホール講演

8月はFOMCが開催されなかった（次回は9/15-16、SEP・ドットプロット公表回）

8/28のジャクソンホール講演でWarsh議長はインフレはまだ十分に改善していないとし、追加引き締めの可能性を排除しない姿勢を示した

市場では9月FOMCでの利上げ観測が意識される展開となった

8月の総括

8月はECBの7月議事要旨が9月の追加利上げ可能性を示唆したことがユーロを支え、ユーロドルは月間+0.62%と小幅高となった。ジャクソンホール講演でWarsh議長が利上げを排除しなかったがドル高は限定的にとどまった。米欧金利差は引き続き米側が優位だが、ECBの追加利上げ観測が市場で意識されるなか、9月のECB・FOMC会合が方向性を見極める材料となりうる。

9月の注目ポイント

9月は①ECB理事会（9/10）と②FOMC（9/15-16、SEP・ドットプロット公表）が相次いで開催される。ECBが追加利上げに踏み切ればユーロが買われやすくなる一方、FOMCでタカ派ドットプロットが示されればドルが買われやすくなる。市場ではECBとFedの追加利上げ余地が意識されており、両中銀の動向によっては金利差の変化が相場材料となる可能性がある。

シナリオ別レンジ予測

 ユーロ強気	30%	ECBが追加利上げ、またはFedが慎重姿勢でユーロ高	1.165 – 1.185
 基本	50%	ECB・Fedともに市場予想の範囲内でレンジ推移	1.150 – 1.175
 ユーロ弱気	20%	Fedが利上げ実施またはタカ派ドットプロットでドル高	1.140 – 1.160

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
ECBの9月追加利上げ（9/10）	中	ユーロ高	追加利上げなら米欧金利差が縮小しユーロが買われやすい
Fedの9月利上げ（9/15-16）	中	ユーロ安	FOMCが利上げまたはタカ派ドットプロットを示せばドル高・ユーロ安
米インフレ指標の上振れ	中	ユーロ安	9月FOMC前の米CPIが上振れすれば利上げ観測が強まりドル高圧力
ユーロ圏景気の下振れ	中	ユーロ安	景気減速が意識されればECBの引き締め余地が後退しユーロ売りに

9月の見通し

基本シナリオは**1.150～1.175のレンジ**とみている。9月はECBとFOMCが相次いで会合を開催し、どちらがよりタカ派な姿勢を示すが方向性の鍵となる。ECBが追加利上げ、Fedが据え置きならユーロ高方向。逆ならドル高方向。米欧インフレ指標のサプライズに注意が必要な月となりやすい。

用語解説

Fed / FOMC

米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。8月は会合なし。次回9/15-16（SEP・ドットプロット公表）。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する基準金利。Fed上限3.75%とECB預金金利2.25%の差は1.50pp。

HICP

ユーロ圏の消費者物価指数。ECBが物価目標（中期的に2%）の基準とする指標。ユーロスタット（Eurostat）が発表する速報値・確報値があり、数値は改定されることがある。

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏21カ国の中央銀行。8月は会合なし。7月議事要旨で9月の追加利上げ可能性を示唆。次回9/10。

ジャクソンホール講演

毎年8月にカンザスシティ連銀主催で開かれる経済シンポジウム。Fed議長の発言が金融政策の方向性を示す場となりやすい。

フォワードガイダンス

中央銀行が将来の政策方針を事前に示す情報発信。Warsh議長体制のFedはフォワードガイダンスについて慎重なスタンスとされる。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性などを保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。